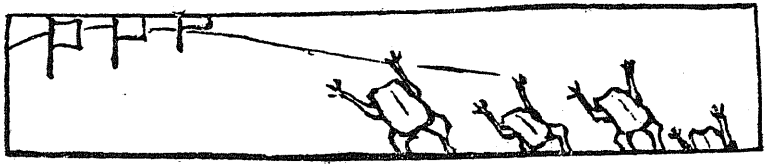


ピヨン太郎

東京女子高等師範學校附屬幼稚園研究部

此のお伽噺は全然創作にかゝるものではありません。いろ〳〵のお話を集めて改作したものであります。

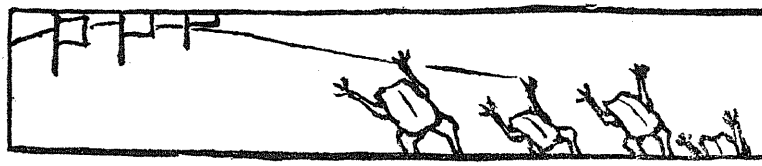
（一）

お池の中の蛙のおうちに「おたまじやくし」が生れました。皆で大變に悦んで可愛がつて育てました。眞黑な小さな蝌蚪で足も何もありません。

たゞ長い尾があつて水の中をチョロ〳〵泳いでゐます。お母さんの蛙は毎日お池から出で方々をピョン〳〵と跳んで歩きます。そして歸つて來てはお池の中へヂャブーンとびこんでスースースーと泳ぎます。そして外で見たいろ〳〵の面白い事を話して聞かせます。蝌蚪は自分も池の外に出てお母さんのやうにピョン〳〵とはねて見度くてたまりません。

『お母さん、私も外へ行つてようございますか』

『いゝえ〳〵、お前はまだなか〳〵出られません、お母さんのやうに足がちやんと四つ出來なければだめ、ホーラ一ッ二ッ三ッ四ッあるでせう、お前も今にかう云ふ風になりますから其迄お池で金魚さんや目高さんと遊んでお出でなさい、又お母さんが外からおみやげを持つて歸つてあげますからね』



『え丶』

それから蝌蚪は毎日々々お池の中で元氣よく遊んで居ましたが或る朝、

『お母さんこんなものが出て來ましたなあに』

『あ丶それは後の足ですよ。よかつた事足が出ましたね』

『あしなの、嬉しい、ぢやもう外に出てもよう御座いますか』

『い丶えまだ前の足が二つ出なければ』

『まあそう！』

それから又おたまじやくしは毎日お池の中で遊んで居りました。金魚が

『おたまじやくしさん、それどうしたの、なあに』

『これね後の足なんですよ、もう直ぐ前の足も出ますつて』

『まあい丶のね、前の足が出ればもうお池の外へも出られるのでせう』

『え丶早く出て見度くてたまりません、お母さんのやうにピョン〳〵ととんだらどんなに面白いでせう』

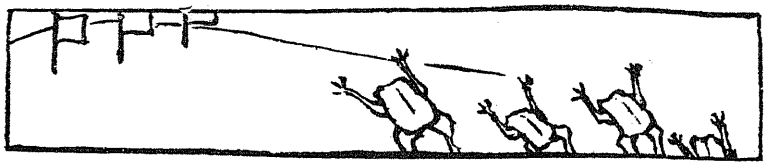
『ほんとにね』

暫らくしてからおたまじやくしが

『お母さん〳〵これなあに……こ丶がこんなに高くなりましたよ』

『お丶それは今に前足が出るのですよ』

『あ丶嬉しいこれが前足になるのですか、あ丶嬉しい、そしたら外にピョン〳〵と飛



んでゆかれる、前足早く出てくれ〳〵』

前足がだん〳〵のびて前と後とちやんと四つ揃ひました。

『お母さん一つ二つ三つ四つ、足が四つになりました、もうとべますか』

『えゝ、けふは母さんと一緒にとんで見ませう、さあいらつしやい』

『嬉しいな〳〵』

『さあようございますかピョン』

『ピョン』

『そうです〳〵、も一つピョン』

『ピョン』

『ピョン、ピョン』

『ピョン、ピョン』

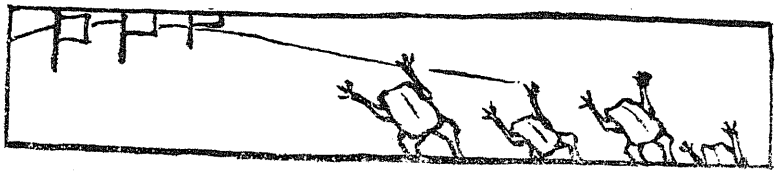
『えゝお上手〳〵今度は見て居ますから一人で飛んで御覽なさい』

『ピョン〳〵ピョンピョン……オットあぶないピョン』

『さうです〳〵よく飛べましたね、ぢや又明日にしませう』

『えゝ面白いのね、お母さん』

『えゝおもしろいでせうそれから又だん〳〵遠く迄とばれるやうになります、毎日お稽古しませうね、それから上手になるやうにピョン太郎さんとお名前をつけて上げませう』



『ありがたう「ピョン太郎さん」いゝお名前だなあ、ピョン太郎さん』

ピョン太郎は知らんで「ピョン太郎」「ピョン太郎」と云ひながらピョン〳〵ととんでお家へかへりましたので大變に上手になりました。そして遠い所まで飛んでもちつとも疲れなくなりました。

（二）

或る朝ピョン太郎のお母さんが「蛙の新聞」を見てゐました。

『おや〳〵ピョン太郎さんいゝ事がありますよ』

『お母様、なあに』

『あのね、今度の日曜日に向ふの野原で蛙の運動會がありますと』

『さう、お母様、僕もつれて行つて頂戴』

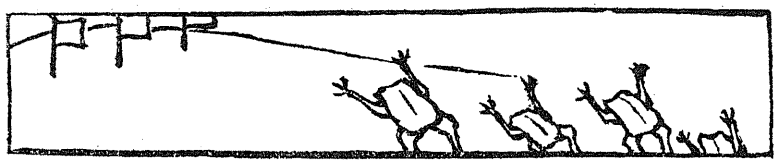
『えゝ、行きませう、運動會はそれは〳〵おもしろいのですよ、かけつこをしたり、高飛をしたり、綱引をしたり、まだ色々の事をします』

『僕駈つこに這入つてもようございますか』

『えゝ、ようございますとも』

『嬉しいな〳〵』

それからピョン太郎は毎日々々朝から晩までピョン〳〵〳〵と駈つこの稽古を一生懸命にしました、そして大變よく駈けられるやうになりました。とう〳〵運動會の前の晩になりました、いよ〳〵あしたは運動會です、ピョン太郎は嬉しくて〳〵たまりません、



寢ようと思つても寢られません、又してもピョン〳〵と駈つこの稽古をしてゐます、お母樣はおいしさうなお辨當を作りながら、

『ピョン太郎さん、嬉しいでせう、あしたはしつかりおやりなさい』

『え〳〵、僕もう嬉しくて〳〵仕樣がありません』

『ぢや、今夜は早く寢ませう』

お母樣もピョン太郎さんも、ぐつすり眠りました。

朝になると上天氣！　ピョン太郎ははね起きました。

『やあ、嬉しいな〳〵運動會』

それからすつかりお母樣にお支度をして戴きました。赤い運動シャツを着て赤い運動帽子をかぶつて水筒をさげて、お辨當をしよつてしつかりお支度が出來ました。と、

『いつて參ります』

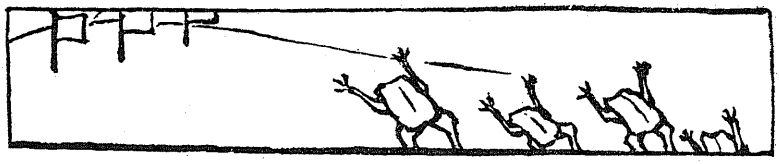
『いつていらしやいませ』

お母樣とピョン太郎と二人でピョンピョンと出かけました。

だん〳〵會場に近づいて參りますと樂隊の音が聞えます。

『ブーカブーカドン〳〵ドン〳〵』

ピョン太郎はもうぢつとしては居られません、ピョン〳〵〳〵とかけ出しました。旗もきれいに飾つてあります。見物人もぞろ〳〵參ります。這入つて見るともうちやんと用意がしてあります。旗、毬、綱、輪、杓子皆揃つて居ます。其の內に花火が、トーンバー



ンバチ〳〵〳〵

『そら運動會が始まつた。』

一番はじめに皆の體操です、雨蛙、土蛙、との樣蛙、青蛙、いぼ蛙、大きいのや小さいのやたーくさん、それから、がま蛙が號令をかけて居ます。

『右の手を擧げ—擧げ！　下せ、一、二、一、二、一、やめ！』

『左の手を擧げ—擧げ！　下せ、一、二、一、二、一、やめ！』

『後脚で立て—立て！　歩け—歩け！一、二、一、二、一、やめ、坐れ！』

『跳躍運動　始め！　一、二、一、二、一、二、』

『ピョン、ピョン、ピョン、ピョン、ピョン、ピョン』

『やめ！　右向け右！　前へ進め、駈け足、一、二、一、二……』

其の次は綱引きです、赤と白とに別れてしつかり綱につかまりました。

『用意！』『始め！』

『オー、エス、オー、エス……』

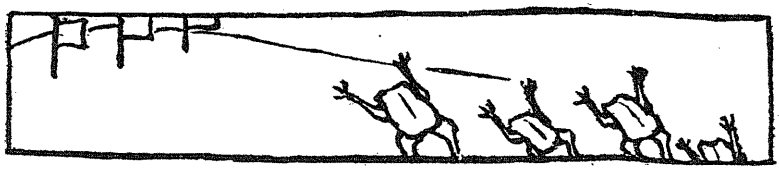
『白勝つやうに、赤勝つやうに』

『オー、エス、オーエス……』

『ピリピリピリ——赤萬歳——』

『萬歳！　萬歳！』

『右向け右！　駈け足！一、二、一、二……』



こん度は愈駈つこです、皆ラインの上に並びました。ピョン太郎は端から二番目に並びました、體をのり出して。

『用意、ドン』

『ピョン、ピョン、ピョン、ピョン、ピョン、ピョン』

皆一生懸命に駈け出しました、ピョン太郎も必死です、皆も中々早いのでピョン太郎は目をまん丸くして、口を結んで、汗びつしよりになつて、ピョン〳〵〳〵と急ぎました。一匹抜き、二匹ぬき、三匹抜いてうんと力を入れて四ひき目を抜きもう一匹だと云ふのでピョン太郎ありつたけの力を出して駈けました。とう〳〵五匹目をぬいて第一着になりました。

『ピョン太郎君萬歳！萬歳！萬歳！』

ピョン太郎は嬉くて〳〵お母さんのところへとんで歸りました。お母さんも大よろこびで大變褒めて下さいました。

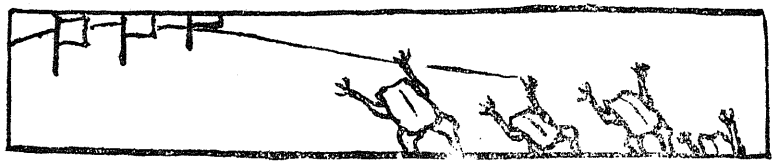
それからピョン太郎はおいしいお辨當を戴いて澤山運動會を見てかへりました。そしてお内の方にけふの面白かつたお話をして上げました。

（三）

或る日ピョン太郎は

『お母様、僕これから向ふのお池へお魚釣りにいつてもようございますか』

『えゝ、いつていらつしやい』



それからお母様は大きな三角のおむすびを三つ拵へて下さいました、そしてちやんと風呂敷に包むで、お辨當に作つて下さいました。

ピョン太郎は赤い運動シャツを着て赤い運動帽子を被つてお辨當を腰にさげて物置から出して來た釣竿を擔いで籠を持つて、

『行つて參ります』

『いつていらつしやい、よく氣をおつけなさい』

『えゝけふはお池中の魚をみんな釣つてやらう、鯉も鮒も目高もみんな釣つてやらう』

廣い〳〵お池へまゐりました、小さな波が銀色に光つてゐます、綠色の美しい蓮の葉がまあるく〳〵浮んで居ます、お魚が時々ピョイ〳〵と水の上にはね上つて居ます。

『居る〳〵、どれ釣りませう』

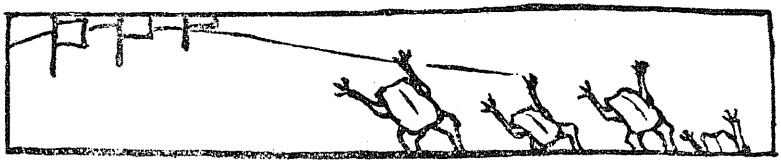
鈎のさきに餌をつけてポイと水の中に投り込み、石の上に腰をかけてぢつと待つて居ます、一向につれません、いくら待つてもお魚がかゝりません。

『かゝらないなあ、よし、ぢやあもつと眞中の方へいこう』

ピョン太郎は池の中へどぶんと飛び込んでスースースーと泳いでいつて蓮の葉の上にのりました。

『こゝならよく釣れるにちがひない、どれ釣つて見ませう』

又餌をつけてポイと水の中に投り込みぢつと待つてゐます、暫くするとピクリ〳〵と糸を引きます。



『そら、來た』

そつと上げて見ます、可愛い〻鮒が釣れました。

『可愛い〻鮒だ、鮒さんよく來ましたね』

はりから鮒をはづして籠の中へ入れ、又餌をつけてポイと投り込み、ぢつと待つて居ます、暫くするとピクリ〳〵と糸を引きます。

『そら來た』

そつと上げて見ます。

『おや〳〵今度は鯉の子、鯉さんよく來ましたね、君はまだ小さいね』

はりからはづして又籠に入れました、何尾も何尾も釣つて居る中に、

『ドーン』

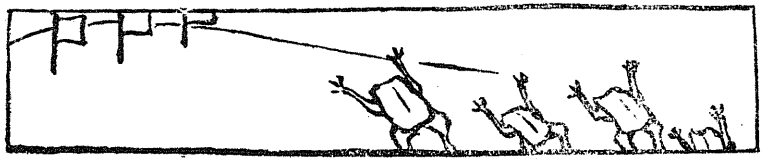
『おやもうドンだ、どれおむすびを戴きませう』

蓮の葉のお舟の中でお辨當を開きました。そして籠の中の鯉や鮒をのぞき込みながら、おいしそうに食べてしまひました。それから又釣り始めました。

『おや！今度は何だらう、こんな長い魚がつれた、あ〻鰻か、隨分長いなあ』

はりからはづして籠に入れました、又餌をつけて、ポイと投り込みました、投り込んだと思ふとすぐピクリ〳〵と引きます。

『おや〳〵何だか大變強く引くぞ、はてな、おや、これは重い、ドツコイショ、お〻中々重い』



やつとの事でつり上げましたら大きな〳〵鯉です。

『やあ大きいぞ〳〵、こんな大きいのは今迄釣つた事がない、籠に入るかしらん、嬉しいな〳〵、おやこの鯉が何か云つて居る泣いて居る、何？子供の鯉をかへして呉れ？ぢやさつきの小さな鯉がお前のうちの子供なの、それをかへして呉れ？』

ピョン太郎は暫く大きい鯉と小さい鯉を變りばんこに見て居ました。

『よしかへして上げやう』

小さな鯉をつかみ出して大きな鯉と一緒に池の中へ入れてやりました。

大いのと小さいのとは嬉しさうに鰭を動かして、元氣よく遠く〳〵の方迄泳いでかへりました。ピョン太郎は見て居ましたが、

『序にお前達もみんなかへして上げませう、おうちへおかへりなさい』

一尾づゝつまみ出して、

『ホーラお歸り、さようなら』

『ホーラお前もお歸り、さようなら』

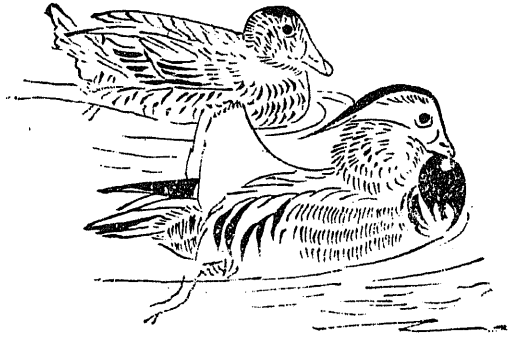
『ホーラお前もおかへり、さようなら』

『ホーラらお前もお歸り、さようなら』

すつかり池の中にかへしてやりました、そしてぢーッと泳いで行くのを見て居ました。

『あゝおもしろかつた、僕もかへりませう』

ピョン太郎は、からつぽになつた籠をぶら〳〵と釣竿の先にぶら下げて、大きな聲でう

たひながら歸りました。

『夕燒、こやけ、あした天氣に、なあれ！』